

1. 中間報告書 (2025年 10月 24日)

活動実施期間	2025年 4月 1日 ~ 2025年 9月 30日
<p>【上期の活動内容】</p> <p>① 司法書士による債務整理と生活保護の解説セミナー</p> <p>・ <u>日程</u> :</p> <p>2025年 7月 31日 14:00-16:00</p> <p>・ <u>場所</u> :</p> <p>グッジョブセンターおきなわ研修室</p> <p>・ <u>参加者数と参加機関</u> :</p> <p>計 50名 (現地参加 32名、ZOOM 参加 18名)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 生活困窮者自立支援機関職員 - 就労支援機関職員 - ひとり親相談窓口職員 - 母子生活支援職員 <p>・ <u>目的</u> :</p> <ul style="list-style-type: none"> - 求職者や生活困窮者の支援において直面することの多い債務問題および生活保護制度に関する正確な知識を習得する。 - 近年、動画サイトやSNS等を通じて「借金が必ず減る」などと宣伝する弁護士・司法書士によって、不適切な債務整理に誘導される相談者が増加しており、金銭的な被害に発展するケースも見られる。こうした状況に対応するため、専門家による解説を通じて、支援者として必要な基礎知識と対応力を身につけることを目指す。 - 生活保護に関しては、「車や持ち家があると申請できない」といった制度に対する誤解が依然として根強く存在しているため、生活保護法に基づいた正しい制度理解と、適切な支援の在り方について学ぶ機会とする。 <p>・ <u>内容</u> :</p> <ul style="list-style-type: none"> - 債務整理の種類 (任意整理、個人再生、自己破産など) や、それぞれの手続きの流れ、注意点についての解説。 - 債務整理後に起こり得るトラブル (悪質業者による勧誘、信用情報への影響など) と、それに対する適切な対応方法についての説明。 - 生活保護制度の目的や支給要件、よくある誤解 (「働ける人は受けられない」「資産があると無理」など) を正し、支援員としての適切な関わり方についての話。 - 参加者からの質疑応答。債務整理の実務に関する疑問、生活保護申請時の対応方法、支援における留意点などについて、活発なやり取りが行われ、理解を深めた。 <p>・ <u>成果</u> :</p> <ul style="list-style-type: none"> - 債務整理や生活保護に関する制度理解が深まり支援の質の向上につながった。 	<p>活動写真①</p>  <p>現地参加 32名、ZOOM 参加 18名</p>  <p>債務整理の手順について丁寧に説明が行われた</p>  <p>参加者からの質疑応答</p>

- 債務整理や生活保護といったセンシティブな相談にも自信を持って対応できるようになり、利用者との信頼関係構築に貢献。
- 債務整理後に起こり得るリスクや二次被害にする知識が強化され、現場での注意喚起や初期対応が的確にできるようになった。
- 誤解されがちな生活保護制度について、法的根拠に基づいた正確な知識を得たことで、偏見なく公平な支援が可能となる。
- 生活困窮者の命や生活の立て直しに関わる支援の重要性を再認識する機会となった。
- アンケートより、資料の内容が充実しており今後の相談支援に直接活用できる知識として評価された。

・ 所感 :

- 全体として非常に有意義で勉強になったという声が多く、講師の熱意や現場理解に対して高い評価があった。
- 債務整理と生活保護の2つのテーマを一度に扱ったため、内容が駆け足で消化しきれなかったという意見が複数あった。
- テーマごとに別日開催や、録画配信による補足学習のニーズが寄せられた。
- 特に以下の点について「もっと詳しく知りたかった」との声が多かった：
 - ・ 債務整理の種類と具体的な事例（任意整理や自己破産、二次被害への対応）
 - ・ 闇金や悪質業者への対応策
 - ・ 生活保護と車の保有に関する基準・運用
 - ・ 保護申請における原則と現実のギャップ
 - ・ 債務問題と命に関わるリスクへの早期介入の必要性
- 現場の複雑な事例に即した対応方法（例：障害を抱える家族による複数契約問題）についても関心が高く、個別事例の共有や対処法の紹介が求められた。
- 家計改善支援員や母子家庭支援員向けにも対象を広げて実施してほしいという要望があった。
- 資料提供や、相談者用に抜粋版の希望など、実務への活用意識が高い参加者が多く見られた。
- 継続的な研修実施を望む声が多数あり、新任支援員向けの導入研修の希望も寄せられた。

②旭橋マルシェ&フードドライブ

・日程・場所：

- 食品事前受付
2025年9月13日(土)～19日(金)
場所：グッジョブセンターおきなわ総合受付
- 旭橋マルシェ&フードドライブ当日
2025年9月20日(土)
場所：カフーナ旭橋
- 食品仕分け・提供
2025年9月22日(月)～26日(金)
場所：就労サポートセンター

・食品提供者数：

- 計 33 名
(那覇市：22名、本島南部：6名、本島中部：5名、
本島北部：0名)
(20代：1名、30代：5名、40代：4名、50代：
17名、60代：4名、70代：0名、無回答2名)

・目的：

当協会の一事業であるグッジョブセンターおきなわ(沖縄県商工労働部雇用政策課事業)の入居するカフーナ旭橋にて開催される「旭橋マルシェ&フードドライブ」(主催：旭橋都市再開発株式会社)において、当協会ではフードドライブ企画を担当し、食品の集約、支援機関への振り分けを実施する。「まちとつながる、やさしいマルシェ」をテーマとするこの企画では、地元の力(作家・農家・飲食店)である”食”と”体験”を通じて社会とつながる、誰もが気軽に立ち寄れて心もちょっと豊かになる場所を創造することを目的としている。また一過性のイベントに終わらせず、フードドライブやその必要性を学び、県内の関連する取り組みを知り、そこに繋がる機会を提供する。

・内容：

食品事前受付に、グッジョブセンターおきなわ総合受付にて食品の受付を開始(日・祝日を除く)。旭橋マルシェ&フードドライブ当日は、カフーナ旭橋 A 街区 2 階ロビーにてブースを設置し、食品の提供を受け付ける。集めた食品は内容記録の上、支援機関毎に仕分けて受渡す。提供先は、生活困窮者支援を行っている県内の各団体。

・成果：

カフーナ旭橋館内に貼られたポスターや、配布されたチラシ、インスタグラム、ホームページを見たという方や、主催・参加機関の関係者から教えてもらった、という方が多数となった。中には、「フードドライブへの食品の提供自体が初めてで、今回良い機会だったので参加した」という方や、フードドライブとは何かといった質問をする方もいて、フードドライブの必要性を学び、社会貢献活動に参加するきっかけを提供するといった本イベントの目的に沿った成果が見られた。

活動写真②



9月13日(土)～19日(金)グッジョブセンターおきなわでの事前受付



9月20日(土)旭橋マルシェ&フードドライブ当日 カフーナ旭橋 A 街区 2 階ロビーにて



寄付食品の集計・仕分けの様子

・所感：

今回のフードドライブでは、多くの地域住民や入居機関の方々にご参加いただき、予想を上回る量の食品が集まった。特に、沖縄の旧盆明けという时期的な背景もあり、お中元などの贈答品による余剰食品の提供が多く見られた。また、主催機関や関係機関、出店者の SNS（インスタグラム等）を通じてイベントを知り、参加された方も多く、情報発信の有効性が改めて確認された。一方で、「フードロス」や「フードドライブ」の意義、集められた食品の提供先について、より多くの方に理解を深めていただく工夫が必要であると感じた。具体的には、パネル展示やリーフレットなどを活用し、活動の背景や社会的な意義を可視化することが今後の課題と考える。

・連携機関：

- イベント主催：旭橋都市再開発株式会社
- 食品提供先：フードバンクセカンドハーベスト
沖縄、沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター、沖縄市就職・生活支援パーソナルサポートセンター、那覇市就職・生活支援パーソナルサポートセンター

2. 完了報告書 (2026年4月30日)

活動実施期間	2025年10月1日 ~ 2026年3月31日
--------	-------------------------

【下期の活動内容】

①未来を育てる職の知恵フードリテラシー

・ 日程 :

1回目 : 2025年11月22日(土)

2回目 : 2025年12月14日(日)

・ 場所 :

沖縄市就職・生活支援パーソナルサポートセンター

・ 参加者数 :

第1回 : 5名

第2回 : 3名 (※キャンセル2名)

合計 : 延べ8名

・ 本セミナーの目的

本セミナーは、若者を主な対象として、「食」を通じた社会経験の機会を提供し、自ら食事を準備する力の育成を図るとともに、栄養バランスの重要性についての理解を深めることを目的として実施した。あわせて、同世代間の交流を促進し、孤立の防止につなげることも目的とした。

・ セミナーの内容

第1回では、「忙しい日常の中でも短時間で栄養を摂取できる食事」をテーマに実施した。沖縄県がかつて長寿県であった背景を踏まえ、偏った食生活が健康に及ぼす影響について説明するとともに、「色で考えるバランスごはん」の考え方を紹介した。加えて、発酵食品の取り入れ方、電子レンジを活用した時短調理、冷凍保存の方法など、日常生活に活用できる実践的な内容を取り扱った。

第2回では、「隠れ塩分に気づく」をテーマに実施した。日常的な食事に含まれる塩分に

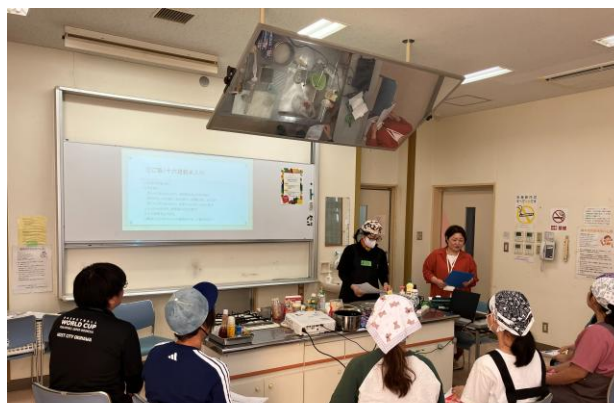
ついて理解を深めるとともに、減塩を意識しながらも満足感のある食事を実現するための工夫として、食材のアレンジ方法や出汁の旨味を活用した調理のポイントを紹介した。

なお、当初は若者を主対象としていたが、実際には幅広い年代の参加があり、世代を超えた交流の機会となった。

・ 所感 :

参加者アンケートや当日の様子から、「食」に対する理解と関心の向上が確認された。「調理方法による味の違いへの気づき」や「発酵食品の活用意欲の向上」、「家庭での実

活動写真①



「実践意欲」など、具体的な行動変容につながる意見が多く見られた。また、参加者同士の交流も活発に行われ、安心して意見交換ができる環境が形成されたことから、当初の目的である孤立防止や交流促進についても一定の成果が得られたと考えられる。一方で、参加者数は限定的であり、特に若年層の参加促進に向けた周知方法の工夫や対象者設定の再検討が今後の課題として挙げられる。

②体験が未来をつくる(やってみる！が育てる、自信と未来)

・日程：

2025年12月13日(土)

・場所：

県民の森、ルネッサンスリゾートホテル周辺海域

・参加者数：

親子約12名程度(1歳～14歳の子どもと保護者)

・本セミナーの目的：

本事業は、ひとり親家庭の親子を対象に、自然体験や食体験等の日常では得難い機会を提供することで、子どもの体験格差の解消を図るとともに、親子での共同体験を通じた関係性の強化を目的として実施した。あわせて、非日常の体験によるリフレッシュやストレス軽減、自立に向けた生活力の育成のきっかけづくりも目的とした。

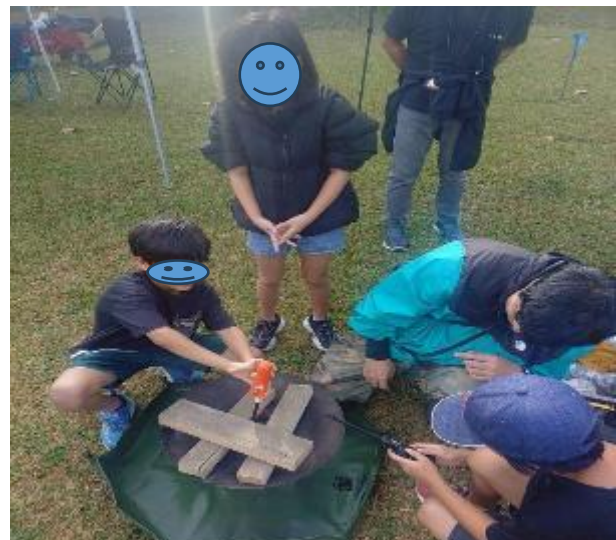
・セミナーの内容：

本事業は、「山・海・食」を一体的に体験できるプログラムとして実施した。午前中は県民の森において自然観察を兼ねた山歩き(約1時間)を実施し、その後、デイキャンプ形式でバーベキューを行った。参加者自身が火起こしや調理を体験することで、主体的な行動を促す内容とした。午後はルネッサンスリゾートホテルにてハーリー船体験を実施し、乗船しながら海や魚の観察を巡りながら親子で協力しながら取り組む体験を通じて、一体感の醸成を図った。また、季節行事として職員がサンタクロースに扮し、子どもたちへプレゼントを配布する企画も実施した。

・所感：

当日は幅広い年齢層の子どもたちが参加し、山歩きでは年少の子どもも含め全員が最後まで歩き切る姿が見られた。バーベキューでは、初めて火起こしや調理に挑戦する様子が多く見られ、周囲からの声かけや成功体験を通じて、達成感や自己肯定感の向上につながる様子が確認された。ハーリー船体験では、初めて参加する親子が多く、船上での活動を通じて自然と笑顔や会話が生まれ、親子および参加者同士の交流が深まった。本事業を通じて、「体験は子どもの成長にとって重要な要素である」と改めて実感する機会となり、体験格差の解消および親子関係の強化という目的について一定の成果が得られたと考えられる。一方で、集合時間の遅れにより一部スケジュールが逼迫する場面があったほか、職員配置が十分とは言えず、安全管理面で課題が残った。今後は、余裕を持った進行計画や事前連絡の徹底、適切な人員配置の検討が必要である。さらに、次

活動写真②を挿入してください



④ 愛着形成を基に沖縄の社会課題をワガゴトにする学びの場の開催

活動写真④

- ・ 日程：2025年11月15日（土）13:30～16:00
- ・ 場所：沖縄空手会館 研修室 A・B（豊見城市）
- ・ 参加者数：
 - 参加申込者数：86名
 - 最終参加予定者：77名
 - 当日参加者数：63名
 - アンケート回答者数：60名
 - 運営ボランティア：9名

・ **本セミナーの目的：**
 本セミナーは、「愛着形成を基に沖縄の社会課題をワガゴトにする学びの場」を開催し、参加者が自身の抱える社会課題を「ワガゴト」意識し、地域に貢献する契機とすることを目的とする。また、参加者同士が互いに支え合い、課題を乗り越えるためのサポートを行う。このセミナーを通じて、参加者が自身の抱える社会課題を「ワガゴト」意識し、地域に貢献する契機とすることを目的とする。また、参加者同士が互いに支え合い、課題を乗り越えるためのサポートを行う。

・ **セミナーの内容：**
 本セミナーは、自己理解と愛着形成の重要性を学び、自身の抱える社会課題を「ワガゴト」意識し、地域に貢献する契機とすることを目的とする。また、参加者同士が互いに支え合い、課題を乗り越えるためのサポートを行う。このセミナーを通じて、参加者が自身の抱える社会課題を「ワガゴト」意識し、地域に貢献する契機とすることを目的とする。また、参加者同士が互いに支え合い、課題を乗り越えるためのサポートを行う。

・ **所感：**
 参加者の多くが自己理解の重要性を学び、自身の抱える社会課題を「ワガゴト」意識し、地域に貢献する契機とすることを目的とする。また、参加者同士が互いに支え合い、課題を乗り越えるためのサポートを行う。このセミナーを通じて、参加者が自身の抱える社会課題を「ワガゴト」意識し、地域に貢献する契機とすることを目的とする。また、参加者同士が互いに支え合い、課題を乗り越えるためのサポートを行う。

- ・ **協力機関：**
 - 沖縄大学（講師所属）
 - 豊見城市シルバー人材センター（運営協力）



⑤文化施設見学とマナー体験による社会学習

・日程：

2026年3月25日(水)

・場所：

おきなわ工芸の杜
DMMかりゆし水族館（イーアス沖縄豊崎）
琉球温泉瀬長島ホテル

・参加者数：

児童・生徒および引率者 計 14名
（内訳：未就学児2名、小・中学生4名、
その他参加者含む）

・本セミナーの目的：

本事業は、文化施設見学や自然体験、ホテルでの食事体験を通じて、公共空間におけるマナーや社会的行動を学ぶ機会を提供し、体験格差の解消を図ることを目的として実施した。あわせて、日常生活では接点の少ない職業や社会の仕組みに触れることで、知的好奇心を喚起し、将来の進路や社会との関わりについて考える契機とすることを目的とした。

・セミナーの内容：

本事業は、文化・自然・社会体験を組み合わせた1日プログラムとして実施した。貸切バスで移動しながら公共交通機関利用時のマナーを学習した後、おきなわ工芸の杜にて美術展（木彫作品）を鑑賞し、伝統技術や手仕事の価値について理解を深めた。その後、水族館見学を通じて海洋生物の生態や自然環境への理解を促した。さらに、ホテルレストランにおいてビュッフェ形式の食事体験を実施し、配膳や順番待ち、テーブルマナー等の基本的な食事マナーを学習した。最後に、当日の振り返りとして感想発表を行い、体験内容の整理と共有を行った。

・所感：

参加者は、普段経験する機会の少ない文化施設や水族館、ホテルでの食事を通じて、社会的マナーや公共空間での行動について実践的に学ぶ様子が見られた。特に、バス移動や施設内での行動においては、周囲を意識した振る舞いが徐々に身につく様子を確認された。また、工芸作品の鑑賞や水族館での観察を通じて、自然や文化、仕事への関心が高まり、「ど

のような人が関わっているのか」「どのように作られているのか」といった問いが生まれるなど、知的好奇心の喚起につながった。ホテルでの食事体験では、非日常の環境の中でマナーを意識しながら行動する経験が、参加者の自信や社会性の向上に寄与したと考えられる。

本事業は、体験格差の解消とキャリア意識の醸成の双方に資する機会として、有意義な

活動写真⑤



取組となった。

- ・協力機関：
(記載なし／必要に応じて各施設名を記載)

⑥2025 年末お福分け隊

- ・日程：
2025年12月27日(土)10:00~14:00
- ・場所：
那覇会場：グッジョブセンターおきなわ6階
中部会場：沖縄市雇用促進等施設(BCコザ)1階
- ・来場世帯数：
那覇会場：152世帯
コザ会場：157世帯
当日参加者数：63名
- ・目的：
年末の物価高騰の中、生活困窮者や低所得者層が安心して年越しを迎えられるよう、必要な食糧や衣類等を無償で提供することで、地域社会における貧困緩和と社会的孤立の防止を目指す。労働者福祉団体が、地域社会とつなぐ・つながる活動を通し、多分野協働で支え合う取り組みを実施する。
- ・内容：
これまでの実施の中で、「子どもの式服や体育着・部活着の購入に困っている」などの声が多く寄せられたことから今年度も『リユース市』のコーナーを設置。今年度は、ニーズに合った衣類が多く集まった。子どもたちが明るく一年を終え、笑顔で新年を迎えられるよう、お菓子のつかたみ取りコーナーなどを設けた。遊びに来た子どもたちもプチスタッフとして運営に関わるなど、来場者参加型のイベントとなった。

活動写真⑥を挿入してください。

